# 学校だより =第9号=





# おおやっ子受

カラーで見る 学校だより

養父市立大屋小学校 令和7年10月8日 発行

# 園小合同体育研究授業

~YABU スクールチャレンジ事業~

# お話レストラン

~中学生読書ボランティア~

Ⅰ年生と大屋こども園きりん組との合同体育授業を実施しました。

Ⅰ年生は、いつも以上に張り切って「運動あそび」の授業に取り組み、5歳児さんは、最初緊張気味でしたが、お兄さんやお姉さんの見本や声かけにより、楽しく参加していました。

この授業は、YABU スクールチャレンジ事業を活用して、環太平洋大学から清田美紀准教授に、ご指導をいただきました。また、市内の小学校や中学校の

先生方にも参加していただき、幼 小連携について の研修を深める ことができました。



大屋小中合同の読書交流企画「お話 レストラン」を実施しました。

中学校から誰が読み聞かせに来るかは知らせずに、中学校で作成された「あらすじ一覧」から児童が興味のある本を自分で選びました。

当日、小学生が会場となる8教室に分かれて待っていると、それぞれの教室に中学生が登場し読み聞かせが始まりました。少し緊張した中学生が、一生懸命本を読み、聞き手の小学生は、真剣に聞き入ったり笑顔があふれたりと、新たな

交流の機会となりました。読書の楽しさと、異年齢で学び合う温かい雰囲気に包まれた時間となりました。





## 令和7年度 後期児童会が始動



9月26日、に後期児童会役員選挙立会演説会と投票が行われました。

5つの役職に、7名が立候補し、全校生の前で、自分の思いを演説に込めて発表しました。

IO月から前期役員から活動を引き継いだ、後期児童会役員が中心となり児童会活動を進めています。

☆令和7年度 後期児童会役員の紹介をします。

児童会長 正垣 さん

6年副会長 髙田 さん 5年副会長 羽渕 さん

6年書記 栗田 さん 5年書記 上垣 さん

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査の考察 4月17日実施

本年度の6年生「全国学力・学習状況調査(国語・算数・理科)」の結果の考察をしましたので、報告します。

## <本校結果の考察>

- Ⅰ 算数 全体平均正答率:全国・県平均より-5ポイント以下
  - ○「角の大きさを理解しているか」を問う問題は、全国・県平均より+5ポイントであった。 △評価の観点である「知識・技能」「思考・判断・表現力」両面で、-5ポイント以下であった。
- 2 国語 全体平均正答率:全国・県平均より-5ポイント以下
  - ○文章を読み、内容に適したものを選択する問題は、全国・県平均前後の正解率であった。△評価の観点である「知識・技能」「思考・判断・表現力」両面で、-5ポイント以下であった。
- 3 理科 全体平均正答率:全国・県平均より-5ポイント以下
  - ○「顕微鏡の操作方法」を問う問題は、全国・県平均より+ I 5ポイントであった。 △評価の観点である「知識・技能」「思考・判断・表現力」両面で、-5ポイント以下であった。

## 4 児童質問(生活や学習に対する質問)

- ○よい結果だった質問
  - ・「人がこまっているときは、進んで助けていますか。」
    - … 当てはまる・どちらかといえば当てはまる 100%
  - ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」
    - … 当てはまる・どちらかといえば当てはまる 100%
- ・「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら解決に取り組んでいますか」 ・・・・ 当てはまる・どちらかといえば当てはまる 100%

#### △課題となった質問

・「自分には、よいところがあると思いますか」

… 当てはまる35.0% (全国平均48.1%)

## 〈まとめ〉

今回の調査結果を受けて、職員の校内研修会を開き、低・中・高学年部ごとに教科ごとの課題と今後の授業づくりについて検討しました。調査の結果からは、文章を読み適切な回答を選択する問題(いわゆる選択問題)や、体験に基づき回答する問題(顕微鏡の操作方法等)は、比較的正解率が高いのに対して、複数の文章や資料から、必要な情報を読み取り回答する問題の正解率が低い傾向でした。単純な計算に取り組んだり、暗記したりするだけでなく、課題に対して、身につけた知識や技能を生かし多くの情報を考察して回答を導き出し、自分の言葉でまとめ表現する力の育成が必要であると考えます。全学年で、今回の調査も踏まえて授業改善に取り組んでいきます。

また、質問紙からは、本校児童の「優しい気持ち」や「地域との関わりの強さ」「郷土愛」が現れていました。反面、自尊感情の低さも継続的な課題として示されました。

尚、「学力・学習状況調査」は、教育活動及び学力の一側面を調査した結果にすぎず、今回の結果 が児童の実態、学校教育、家庭教育のすべてを評価しているものではないことを申し添えます。